みらくる☆深冬ちゃん。

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
みらくる☆深冬ちゃん。

【Ｎコード】
Ｎ６６０３Ｇ

【作者名】
国後旺

【あらすじ】
女子高生、深冬ちゃんの日々を一部、大公開☆「少しフィクションも含んでるよ！」

「はー、もう。自転車漕ぐの超面倒ね」
午後8時ごろ。女子高生の深冬ちゃんはスカートを短くして、胸元のボタンをぱっくり開けて、目の作業に移った。マスカラを目の内側の粘膜に、きつめの太い黒のアイラインを入れ、ビューラーをライターの火であぶって、それで下を向いた睫を挟み、一気に弧を描くように上げ、コンパクトミラーで目を覗くと、大きな目を映し出した。
「ばっちし」
そんなだから前から歩いてくるお爺さんにも気付かずに、轢いてしまうとこだった。しかし。
「太陽拳……」お爺さんは太陽拳を使って、なんやかんやで避けた。
「はあ、危ない危ない。危うく人をひき殺してしまうところだったわ」そう言いながら猫を轢き潰していた。「命を大切にニャン」胴体真っ二つの猫がそんなことを言っていた。

午後8時半ごろ。「今日も退屈ね」学校に着いた深冬ちゃんは、リトル・ウィスパーの『永遠にともに』を聞きながら超感動して涙をボッタボッタ床にこぼしていた。
「深冬、なに泣いてんだ」とクラスの男子が言ってきたので「泣いてないわよ」と言い返しながら、照れ隠しに机を持ち上げて、その角を男子の股間に特急した。そこから金色の球が零れ落ちた。すると「あら、じゃあ私の勘違いね。ごめんなさい」男子の声は高くなり、おしとやかになった。

午後1時ごろ。屋上で深冬ちゃんは新谷くんと一緒にお弁当の馬刺を食べていた。「弁当ウマー」新谷くんといると、何もかもが楽しくなった。新谷くんはというと、白馬に乗って、白馬に自分の弁

当の馬刺を食べさせてあげていた。
「ひーん」白馬は幸せそうに鳴いた。

午後４時ごろ。教室で深冬ちゃんはジャンプをしていた。ただただひたすらに跳ねていた。
「ジャンプ面白いわ」
横で白馬も跳ねていた。跳ね馬だ。「ぐはっ。ぐはっ」着地するたびに新谷くんのお腹にヒヅメがめり込んでいた。ジャンプは本当に面白い。

午後４時半ごろ。白馬に乗って家に帰った深冬ちゃんは、「ふっ。やっと今日が私色に染まる時がきたのね」と言ったあと、玄関で３０分ほど機能停止した。賢者顔で。

午後５時ごろ。深冬ちゃんはネトゲを始めた。
「ふんっ。弱い。カスが」と自分の部屋で一人呟きながら、目の前のアラーヤ・スライムをばっさばっさと切り裂いていた。深冬ちゃんは倒すごとに胸が痛んでいた。無理もなく、アラーヤ・スライムは新谷くんに似ていたのだ。鼻息も荒くなっていた。アラーヤ・キングが出てきた。「大きな新谷くんね」狩り。

午後８時ごろ。ディナータイムに突入である。深冬ちゃんはパソコン画面に手を突っ込みアラーヤ・スライムを鷲掴み、部屋のすみにぶん投げて捕獲した。その後、刺身にしたり揚げ物にしたりチョコレートのカカオの代わりにしたりした。アラーヤ・スライムはカルシウムが豊富である。

午前１時ごろ。ネトゲをやりまくったせいか、汗だくになった。
「やだ。胸の谷間、ねっとりしてる」
これ以上ねっとりすると、放送コードに引っかかりそうなので、

ネトゲをやめた。
食い残したアラーヤ・ぶちスライムは溶けてドロドロになっていた。白馬がそれを何度も踏みつぶすので、部屋のなかに飛び散ってしまった。あとで掃除しようと、深冬ちゃんは心に誓い、ＹＯＵＴＵＢＥでアニメ『新谷バーストストリーム、俺のターン。』を試聴した。毎回、神回らしい。
「ふん、相変わらず面白いじゃない」と怒り気味に一人言う深冬ちゃん。横で白馬が「ふんっ」鼻で笑った。

午前３時ごろ。再びネトゲに足を踏み入れて、アイテム整理をした。手持ち、スライム縛り縄９９９個。「よし」

午後４時。白馬に羽が生え、窓から外に出て空に舞った。「白馬……」
窓から覗ける暗闇の空に、白は眩く光り、目立つ。深冬ちゃんのぷっくりした唇から溜め息が洩れる。
新谷くんが、蛍光灯を頭に乗せて神々しく飛んでいた。
「あはは。あはは。あはははは」
深冬ちゃんも金色の球でジャグリングをしながら笑った。
「うふふ。うふふ。うふふふふ」

（後書き）

本作は、作者の別作品「ダラダラ春休み」の評価感想欄を参考に執筆したものであるため、事実とは多少の違いがあるかもしれません。ご了承を。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6603g/

みらくる☆深冬ちゃん。

2010年10月9日20時16分発行